

展示

学んだこと

馬魂碑



碑の並び

- 馬頭こんひ（真ん中の碑）：自然の中の石を使って、作られた。くようのためにいちばん大きい碑です。
- 左の仏様（段のうえ）：馬を守る仏様、街を守るお地蔵様だったの可能性もあります。
- 右側の石の柱：これは通常「庚申塔」（中国の道教に起源を持ち、日本の江戸時代に繁栄した長寿と地域の平安を祈願する石碑）です。

200.00
0いん上の生
命なくなっ
た...



一年生の時は楽しい学校生活でも、2年生になったら、戦争のため、お国の為の労働をさせられます。



原爆の後、強い衝撃波および放射があり、この服だけで戦争の激しさが表れます。

けんぱくの危害
やまけんをみんなに運
送するため



民間人の鉄兜

この鉄兜は深沢に住んでいた方が使っていたそうです。昭和20年の空襲でこの人は一度防空壕に避難したものの、近所の子供がいないことに気づき、探しに出た時、頭と胸に焼夷弾のかけらを受け、即死しました。

子どもを守る
ためなのに...



被爆2世の柿の木



被爆2世のアオギリの木



平和の祈り



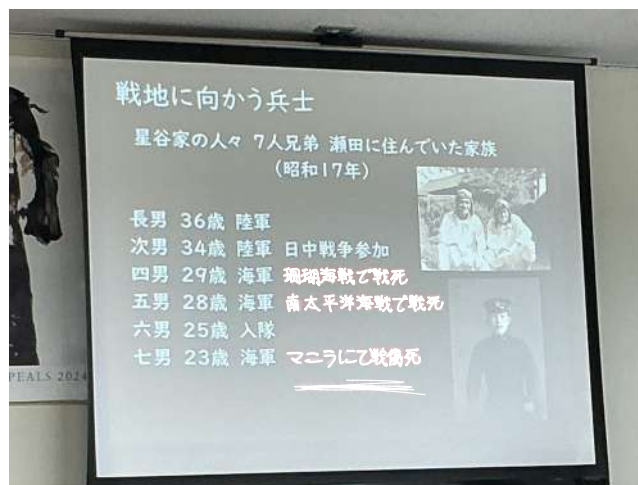
平和の灯

モニュメント

講習会

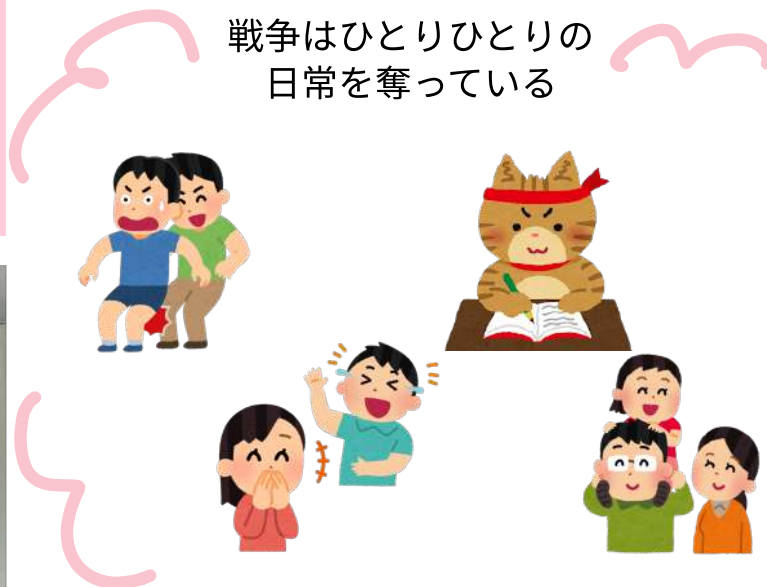
教科書には載っていない、戦争の意外な真実

↓昭和17年に瀬田に住んでいた7人兄弟



長男は陸軍に入隊し、次男は陸軍で日中戦争に参加していました。四男は海軍で珊瑚海戦に参加し、29歳で戦死してしまいました。五男は海軍で南太平洋戦に参加し、28歳で戦死してしまいました。六男は兵に入隊し、七男は海軍に入隊し、マニラにて23歳で戦死してしまいました。

戦争はひとりひとりの
日常を奪っている



私たちが毎日当たり前のように過ごしている日々は、どれもとても大切で、戦争によって奪われていいものではありません。

部活を一生懸命がんばったり、テストに向けて勉強したり、将来の夢に向かって一步步進んだり。戦争は、私たちがそうやって未来のために積み重ねている努力や希望を、一瞬で奪ってしまうものです。誰もが安心して自分のやりたいことに挑戦できる今の環境に感謝して、お互いの頑張りを応援し合いながら、この平和な日々をこれからもみんなで大切にしていくことが大切です。

戦争によって奪われた日常

戦争が激しくなると、国民学校の子どもたちは遠くの田舎のお寺や旅館に長期避難しました。これを学童疎開といいます。女性たちは戦場に送られ、見知らぬ兵隊さんの救護にあたり、中学生は兵器を作る工場に送られました。



疎開児童専用車松本駅着 (代沢)

クイズ！！

Q. 1931年のできごとは何？

1. 終戦
2. キリストの誕生
3. 満州事変



クイズ！！

Q. 1931年のできごとは何？

A. 満州事変

1931年9月18日に中国東北部にて、日本軍が線路を破壊される自作自演をしたため始まった。このできごとから、日本はここに満州国を作り、占領するが、最終的に日本が国際社会から孤立することとなった。